

公告 昭 37.4.16 出願 昭 35.9.13 実願 昭 35-46910

出願人	考案者	島 崎 龍 夫	京都市伏見区深草佐野屋敷町3の2
代理人	弁理士	杉 島 勇	(全2頁)

差 込 鍵

図面の簡単な説明

第1図は一部を切欠きた本考案品の見取図、第2図は同じく正面図、第3図のA、B、Cは分解斜断面図、第4図は戸に取付けた縦断面図である。

考案の詳細な説明

本考案は内周の先端に止縁1を設け、他端に導孔2、2を上下に穿設した円筒体3内に螺線撓条4を嵌め込み、次に円筒体3の導孔2、2と嵌合する凸部5、5を上下に設け、先端に長孔6を設けた押圧管7を挿入して、これが内部に先端部を（ゆるやか）にして他端を急角度に螺線状となしたる差込栓8の一端に遊転するよう匣体9を緩着した挿入杆10の末端に嵌合部11を穿設した摘み11'を緩着したものを挿入して、該円筒体3の根端部を取付台12に固着してこの取付台12の中央突出部12'には該摘み11'を嵌込む嵌合溝13を設け差込栓8の逆動を防止するようなしたものである。

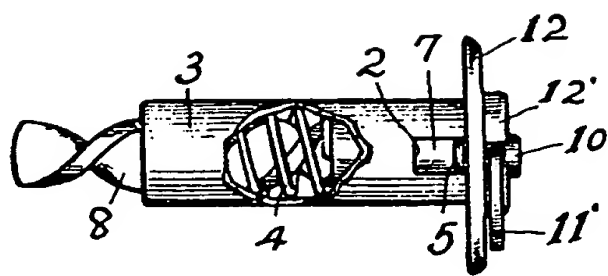
本考案は前述のように、円筒体3内に螺線撓条4を嵌込み、先端に螺線状の差込栓8と係合う長孔6を設けた押圧管7を挿入して、常に螺線撓条

4に押圧管7を反撓することにより差込みたる螺線状の差込栓8はこれが末端に緩着せる摘み11'に設けた嵌合部11と取付台12の中央横に設けた嵌合溝13との嵌合により逆動することなく、しかも押圧管7の長孔6と強接されて妻戸15と引戸14との接合を良くして戸締りを簡単にしかも迅速に施工し得る内鍵として甚だ適切なるものである。

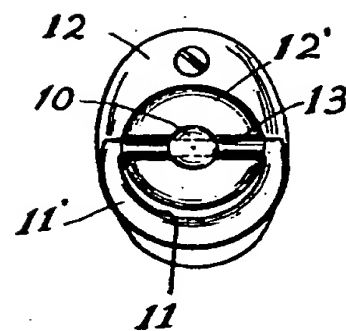
実用新案登録請求の範囲

図面に示すごとく内周の先端に止縁1を設け、他端に導孔2、2を上下に穿設した円筒体3内に螺線撓条4を嵌め込み、次に円筒体3の導孔2、2と嵌合する凸部5、5を上下に設け、先端に長孔6を設けた押圧管7を挿入して、これが内部に先端部を（ゆるやか）にして他端を急角度に螺線状となしたる差込栓8の一端に遊転するよう匣体9を緩着した挿入杆10の末端に嵌合部11を穿設した摘み11'を緩着したものを挿入して、該円筒体3の根端部を取付台12に固着して、この取付台12の中央突出部12'には該摘み11'を嵌込む嵌合溝13を設け差込栓8の逆動を防止するようなしたる差込鍵。

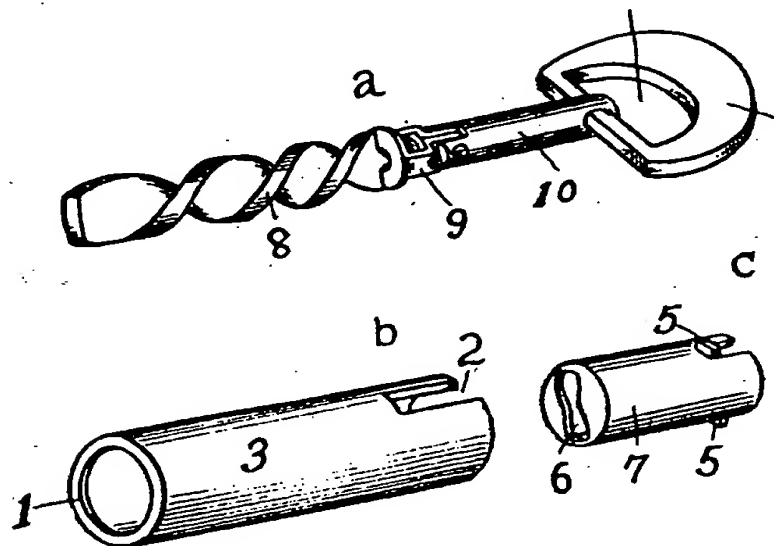
第1図



第2図



第3図



第4図

